

## 社会的潮流と発展課題

### 1 人口減少・超高齢化の進展

高齢者が心豊かに安心して過ごせる持続可能な仕組みづくり、子どもや若者が誇りを持って住み・働けるようなまちの文化や雇用の場の創造が必要といえる。

### 2 産業構造の変化

社会のニーズを的確に捉えつつ、時代にマッチした産業活動を支援していくことが求められている。

### 3 都市からみた「農」のニーズの高まり

巨理町の農業についてもグローバル化が加速されることは避けられず、「農」の位置づけと保全・活用の方策について、総合的に検討することが求められている。

### 4 安全・安心に対する意識の高まり

東日本大震災からの復旧・復興を進めるとともに、台風や豪雨等による土砂災害、水害等への対応、地産地消の推進や防犯意識の向上など、将来に渡って、すべての人が安全に安心して暮らすことのできる巨理町の構築が求められている。

### 5 地球環境問題の深刻化

地域をあげて、温室効果ガス排出量の削減対策を推進し、低炭素社会を実現していく必要がある。

### 6 国民の価値観の多様化・技術革新・ライフスタイルの変化

他の地域にはない巨理町独自の魅力をいかに創り上げ、それを町内外に発信していくかが課題となっている。

### 7 国際化と激化する都市間競争

仙台空港に近接する巨理町では、国際的な視野のもとでの産業展開やまちづくりという視点が重要になっている。また、自らの地域を磨く努力が必要といえる。

### 8 行財政運営を取り巻く状況

都市経営コスト効率化の要請／住民自治・地方自立の時代／協働のまちづくり

## アンケートの結果

### 【生活環境の評価】

- 町に愛着を感じている割合は8割を超え、定住意向は85.8%に達する。暮らしやすいと感じている人は概ね4人に3人である。**年齢が高くなるほど、居住歴が長くなるほど、町への愛着や定住意向、暮らしやすいという評価は高くなる。→ まずは住んでもらう・住み続けてもらうことが大事**
- 「上水道の整備」「下水道等の整備」「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」や「墓地・火葬場の整備」といった主に供給処理に関する項目で満足度が高い。満足度が低いのは、「公共交通機関の利便さ」「保育・子育て環境」「観光の振興」「働きがいのある職場」や「若者の定住化の促進」などである。
- 「火災や災害からの安全性」「防犯、交通安全施設の整備」といった安全に関する項目、「福祉サービスや施設の整備」「保健・医療サービスや施設の整備」「保育・子育て環境(少子化対策)」「高齢者福祉」「子どもの教育環境」といった保健・医療・福祉・子育てに関する項目や「若者の定住化促進」で重要度が特に高い。
- 現状不満側であり、今後も施策展開の重要度がかなり高い項目は、**保健・医療・福祉・子育て、若者の定住化、公共交通や道路の整備、商業・観光振興、働きがいのある職場、再生可能エネルギー、行財政運営の効率化**である。

### 【これからのまちづくり】

- 「健康福祉のまち」、「快適住環境のまち」が1位、2位で、平成21年調査とトップ2の座は変わらない。
- 整備・充実してほしい公共施設としては「総合病院」が突出し、「高齢者福祉施設」が続く。10～30歳代は「屋内スポーツ施設」「公園・広場」「幼稚園・保育所」を望む。
- 復旧・復興や生活再建に重要なこととしては、「避難路、道路網」「保健・福祉・医療機能の充実」が約4割、「ライフラインの強化」「防潮・防災施設」が約3割、「企業誘致」「防災・避難施設」が約2.5割と上位を占める。
- 将来人口については、「積極的に定住人口の増加を図るべきである」が最も多いが、「減少を抑えつつ、交流人口の増加を図る」、「現在人口の維持を目標とする」と回答は割れている。農地の保全についても意見は割れている。
- 土地利用に関しては、農地等の荒廃、遊休用地の増加など、低・未利用地の増加が問題と捉えられている。

## 東日本大震災からの復興

今回の大震災の猛威や恐ろしい体験を教訓とし、自然災害を完全に防御するのではなく、災害時の被害を最小化する「減災」の考え方にに基づき、被災地の復旧・復興に取り組み、一刻も早い被災者の生活再建を図るとともに、新たな町の再生と発展を目指し、町民が安全で安心して暮らし、働くことのできるまちづくりが必要となっている。

## 実施状況調査

- 20%が目標達成、74%が事業展開中、未着手は6%である。
- 未達成や未着手の理由として最も多くを占めるのが「震災の影響」で、全体の半数以上を占める。
- 「社会経済状況の変化」を理由にあげた施策は『第5章 活力あふれる「産業拠点のまちづくり」』の中の農業分野に多く、変化に対応した施策内容の見直しが必要である。
- 『第2章 安全で利便性の高い「快適環境のまちづくり」』、特に道路や上下水道などの基盤整備、市街地整備や防災対策の分野では、「財政上の問題」を理由とする施策が多い。
- 施策実施の達成度が低く、住民の満足度も低い施策：アンケート調査の重要度も高く、施策展開の緊急性が高い。**公共交通機関の整備/保健・医療サービスや施設の整備/行財政運営の効率化/調和のとれた土地利用/市街地や公共ゾーンの整備/道路の整備/再生可能エネルギーの活用/商業の振興**
- 施策実施の達成度は高いものの、住民の満足度は低い施策：アンケート調査の重要度が高く、施策実施の効果が表れていないため、今後も積極的に施策推進を図り、その効果を住民の満足度向上につなげる必要がある。**若者の定住化の促進/保育・子育て環境の向上(少子化対策)/高齢者福祉の充実/工業の振興/観光の振興/働きがいのある職場の整備**

## 現況

### 【土地】

- 概ね平坦で、その中心部には肥沃な平野が広がり、海浜部には仙台湾海浜県自然環境保全地域が、角田市との境には標高200m前後の阿武隈高地の森林地域がある。
- 温暖な気候と美しい自然環境が豊かで、年間を通じて過ごしやすい気象条件下にある。
- 可住地面積割合が高い一方、可住地人口密度は低く、まだまだ住宅地として利用できる土地が多く残されている。
- 農用地が減少し、宅地や一般道路等の都市的土地利用が増加しているが、その転換面積はわずかで、自然的土地利用から都市的土地利用への転換や建築行為などは、震災復興需要を除き、全体として鈍化している。

### 【人口・世帯】

- 平成22年で減少に転じたものの、著しく人口が減少しているという状況ではなく、比較的高齢化が低い水準にある。
- ただし、将来的にも人口減少傾向は続く予想され、社会減が人口減少傾向に拍車をかけているといえる。
- 老年人口割合は一貫して上昇し、今後も老年人口は急激に増加すると予想される。将来的には、老年人口の増加傾向は頭打ちになるが、生産年齢人口の減少が顕著となると予想されている。
- 核家族世帯割合が高く、都市的な家族構成の世帯が多い(ただし、単独世帯の割合は低い)が、高齢夫婦のみ世帯の割合はやや高く、今後単身高齢者の福祉・介護問題の顕在化が懸念される。

### 【就業人口等】

- 仙台市への通勤・通学を中心に、他市区町村への流出超過が大きく、ベッドタウンの傾向が強い。
- 第3次産業就業者の割合が上昇し、巨理町から第3次産業就業者が周辺地域に通勤する傾向が強い。

### 【産業】

- 農家は減少しているが、専業農家は増加傾向にあり、農地の集約化も進んでいる。稲作が基幹作物だが、イチゴ、リンゴ、葉物野菜の生産も盛んである。耕作放棄地は100ha単位で発生している。
- 漁業経営体数、漁獲金額ともに減少傾向で、兼業が廃業し、専業が経営を続ける傾向にある。また、遊漁案内業との兼業が増加している。
- 工業・商業面の機能が高いとはいえない。製造業の事業所数、従業者数は安定的に推移し、製造品出荷等は増加傾向にある。商業の従業者数、年間商品販売額、小売業売場面積はほぼ一貫して増加傾向にあるが、買回品購入の町外流出は大きい。
- 主な観光目的は、マリンスポーツ・釣り、産直施設、海水浴(荒浜)などで、震災の影響は大きい。

### 【居住環境】

- 商業集積は少ない。
- 一般病院はなく、高次都市機能は仙台市や周辺地域に依存している状況といえる。
- 道路整備、持ち家比率や一住宅当たりの延べ面積の水準は高く、居住地としての環境に優れている。
- 保育所在所児1人当たりの待機児童数は県内で最も多い。
- まちづくり協議会が5地区で活動している。

## まとめと・・・(課題に代えて)

- 1 定住化促進と人口減少・高齢化の進展への対応(アンケート調査では「健康福祉のまち」がトップ)**
  - 若者が誇りを持って住み・働き続けられる社会の形成(まちの文化、雇用、住宅、居住環境)
    - …まずは住んでもらう・住み続けてもらうこと(平坦な土地、温暖な気候、豊かな自然環境など、その基盤はある)
  - 高齢者が心豊かに安心して過ごせる社会の形成(保健・医療、福祉、生きがい)
  - 子どもが安心して育つ社会の形成(子育て支援、幼稚園・学校教育、遊び場)
- 2 巨理町の資源を生かした活力の維持・向上**
  - 町の資源(自然、農業、漁業、海など)を生かした産業振興(農業、観光・レクリエーション)
  - 社会のニーズに対応した新たな産業の創出(工業、6次産業化、再生可能エネルギー)
- 3 震災からの復興と暮らしの質の向上(アンケート調査では「快適住環境のまち」が2位)**
  - 安全で安心して暮らせるまちづくり(安全、健康・医療、福祉)
  - 便利で快適に暮らせるまちづくり(拠点整備(商業・公共施設)、都市基盤、道路・交通)
    - …高次都市機能は仙台に依存、身近な生活利便性の向上
  - ゆとりがあり健康的に暮らせるまちづくり(歴史・文化的環境、自然環境、レクリエーション)
- 4 巨理町の個性(巨理らしさ)の発現、地域間交流の促進**
  - 仙台や周辺都市との連絡強化(幹線道路、公共交通)：仙台市との近さ
  - まちの魅力(身近な自然、農業、漁業、海、観光)の創出と発信(情報、PR)：海との近さ
  - 国際的な視野のもとでの産業展開やまちづくり(まちの文化、国際交流、6次産業化)：仙台空港との近さ
- 5 みんなで進める効率的で効果的なまちづくり**
  - 都市経営コストの効率化(行財政運営、広域行政)
  - 協働のまちづくり(住民参加、協議会活動)

## 《第1・2回審議会での主な意見》

- **子育て**(待機児童対策、教育等)
- **観光**(各施設の連携、道の駅、文化の伝承等)
- **交通**(公共交通の改善等)
- **高齢者**(介護、老人ホーム等)
- **産業**(6次産業化、コミュニティビジネス等)
- **拠点づくり**(公共施設、生活拠点、観光拠点等)
- **震災復興**(生活再建、ハード整備等)

スマート IC、メガソーラー、街灯、あいさつ運動、コミセンの活用、救急サービスの向上、地域交流の促進、住みよい町・子育てしやすい町、ほか

## 将来像

### 基本施策

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_
- ：

## 《震災復興計画》

- 「安全・安心・元気のあるまち 巨理」
- 「安全」と「安心」を確保するまちづくり
  - 「暮らしやすさ」と「巨理らしさ」があふれるまちづくり
  - 「なりわい」と「にぎわい」のまちづくり

## 《次期総合発展計画へのビジョン》

- 「巨理パークタウン構想」  
※別紙参照

## わたり フレンドシップ21プラン

### 新しいまちづくりの重点方向

- 1 住民と行政の役割分担を見直し、町民と築く地域協働のまちづくりを進めます
- 2 広域交通体系の整備に対応し町の自立度を高める広域拠点のまちづくりを進めます
- 3 町民が強く望む安全・安心のまちづくりを重点的に進めます
- 4 少子化に対応し、次代を担う若者の定住を促すまちづくりを進めます

### 巨理町の将来像

『思いやりの心で力を合わせ  
安全で安心できる豊かなまち 巨理』

### キャッチフレーズ

『伊達な わたり みんなで築く  
わたしの わたり』

## 施策の全体体系

	思いやりの心で力を 合わせるまち	安全で安心できるまち		豊かなまち		計画推進のために
基本 施策	町民と築く 「地域協働のまちづくり」	安全で利便性の高い 「快適環境のまちづくり」	安心して生涯を託せる 「健康福祉のまちづくり」	こころ豊かにふれあう 「教育・文化と交流のまちづくり」	活力あふれる 「産業拠点のまちづくり」	
施策 項目	まちづくり基本条例の活用 地域協働のまちづくり体制の確立 地域活動・コミュニティ活動の充実 ボランティア活動・NPO活動の充実 人権尊重・男女共同参画社会の推進	防災対策、消防・救急対策の充実 交通安全・防犯・消費者対策の充実 環境保全、景観形成、公園・緑地の整備 上・下水道の整備 公衆衛生とリサイクル対策の充実 調和のとれた土地利用の推進 市街地・公共ゾーンの整備 道路・交通網の整備 情報・通信基盤の整備 住宅対策の充実	地域福祉の推進 保健・医療活動の充実 児童福祉・子育て支援対策の充実 高齢者福祉の充実 障害者福祉の充実 社会保障等の充実	生涯学習体制の充実と活動の推進 学校教育の充実 芸術・文化活動の充実 生涯スポーツの振興 文化財の保護・伝承及び活用 国際交流・地域間交流活動の推進	農林水産業の振興 工業の振興 商業の振興 観光の振興 雇用対策と勤労者福祉の充実	行政運営の改革の推進 財政運営の効率化 広域行政の推進